

A photograph of a landscape at sunset. The sky is a gradient from light blue to orange and yellow near the horizon. Below the sky, there are several layers of hills or mountains. In the immediate foreground, there is a dark, textured surface, possibly a paved area or a fence, with some vertical poles visible. The overall atmosphere is peaceful and scenic.

飛んじる豊岡

A+Z

message

豊岡の魅力を再確認して誇りに思ってもらいたい。
豊岡に帰ってきたいと思えるきっかけを作りたい。

この2つの想いを込めて私はこの本を作りました。

豊岡をはばたくフレッシュな人、豊岡を巣立って頑張る人、
豊岡で暮らすローカルな人、豊岡に関わるすべての人が、
豊岡がたくさんの資源を持つ誇らしいまちであると感じ、
つらくなった時に心をあたためるスミカのような気持ちで
帰ってきてほしいんです。

豊岡に恋をしながらラブレターを書くように
1文字1文字心を込めて書きました。
この気持ちに共感し、
私と恋敵になってくれる人がいたら幸せです。

豊岡について

ふと、豊岡のことを考えました。
田んぼを見守るコウノトリ、自転車を漕ぎながら見た
何気ない景色、これらを思い浮かべながら文字に起
こそうとした時、言葉では表せない気持ちがあること
に気付きました。

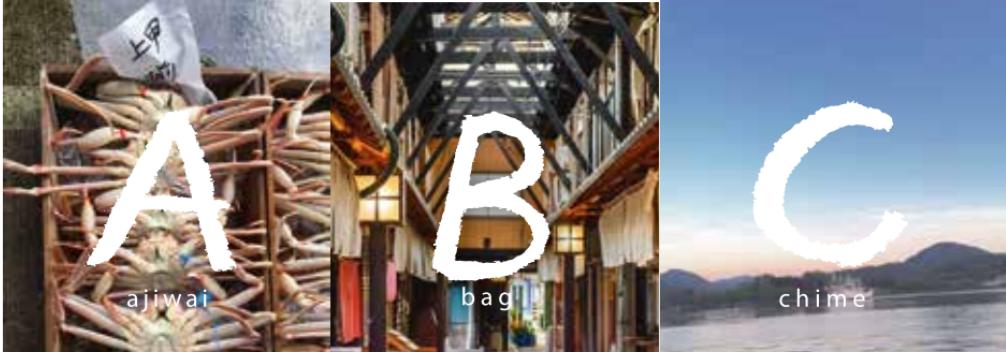
私にとって豊岡は、無条件に **好き** と思える場
所です。

あなたにとって豊岡はどんな場所ですか？

contents

a	ajiwai 味わい
b	bag Bag
c	Chime(チャイム) dashike
d	だしけえ
e	eki 駅
f	friends Frinds
g	geijyutsu 芸術
h	hoshizora 星空
i	inaka 田舎
j	job job
k	kazoku 家族
l	local&global ローカル&グローバル
m	maruyamagawa 円山川

n	neighbor Neighbor
o	onsen(kinosaki) 温泉(城崎)
p	page(seishun no 1page) Page(青春の1ページ)
q	quaint Quaint
r	roppoumichi(hokutann kouiki nondou) 六方道(ほくたん広域農道)
s	shiawase wo hakobu tori 幸せを運ぶ鳥
t	tajimayu 但馬牛
u	umi 海
v	bunkiten 分岐点
w	wing Wing
x	keikodou 稽古堂
y	yuki 雪
z	jibun 自分



「但馬の人は舌が肥えている」それもそのはず、春はホタルイカ、夏はトマトやナスといった美味しい野菜、秋は豊岡の誇りであるコウノトリ米、冬はなんといつても真赤なカニ。季節の旬を味わいながら育った但馬の人は1人1人が美食家です。

農家の冬の副業として作られた柳行李に、ベルトを着けて鞆にしたことから始まったかばん産業は、豊岡の経済を支える主要産業です。今では、「豊岡鞆」というブランドを開拓し、鞆づくりを学べる学校まで出来ました。豊岡は鞆「を」作るまちから、鞆「と」創るまちに進化しています。

12時になったらお昼のチャイム、17時になら帰りましょうのチャイム。時間を忘れて仕事を頑張る人や、夢中で遊ぶ子ども達に平等にふりそそぐチャイムは都会にはない田舎ならではの思いやり。朝と夕に港に響くサイレンは、漁業が盛んな但馬ならではのセリの合図。

chime (チャイム)



D

dashikee

だし
けえ

方言は形のない魅力的な地域資源です。 「今日は雨だしけえ、傘持つて行きんせえよ」 「先生さっき言っとんなったよ」生活の中でごく普通に使われている言葉は、他の地域にはない但馬特有の美点です。但馬弁に包まれて過ごす日々は当たり前のように幸せなことです。



E

eki

駅

行ってらっしゃいと背中を押し、おかえりと暖かく迎えてくれるコウノトリをモチーフにした豊岡駅は、豊岡の人々とシンセカイを結ぶ玄関口です。豊岡を離れた人と、その帰りを待つ人の心を線路で結ぶ駅は、ただの交通手段としての役割だけではなくどまらず、交流の懸け橋的な存在となっています。



F

friend

friend

保育園からの幼馴染、部活と一緒に頑張った戦友、つらい受験や楽しいイベントと一緒に乗り越えたクラスの仲良しグループ。進学や就職でバラバラになり、大人になって会う機会が減っても「やっぱしんどいわ」と大笑いできるのは地元のあったかい友達です。私にとって地元の友達は、楽しすぎて時間があっという間に過ぎてしまうテーマパークのような存在です。



G

geijyutsu

芸
術

近年アートに力を注いでいる豊岡は、アーティスト・イン・レジデンスを拠点とした城崎国際アートセンターを作りました。豊岡はアーティストがのびのびと暮らせる文化的価値のあるまちでとどまるところなく、アートを通じて市民の心が豊かになることを目的とした社会的価値のあるまちの実現に取り組んでいます。



H

hoshizora

星
空

ビルの明かりや車のライトに邪魔されて、都会では夜空を見上げても星を見つけることができません。豊岡では、春夏秋冬いつでも夜空を見上げれば降ってきそうなたくさんの星を見るできます。田舎の星空は、天然のプラネタリウムです。特等席は但馬空港と神辺高原、あつたかい格好で大切な人とどうぞ。

田
舎

「豊岡とか田舎やん」進学・就職で豊岡を離れ、出身地を聞かれた時に一度は言われたことのあるセリフだと思います。豊岡はただの田舎ではありません。美味しい食べ物、綺麗な景色、どんどん進んでいく文化、そして何より暖かいヒトがパンパンに詰まった最強の小さな世界都市です。



J

job

K

kazoku

L

local&global

M

maruyamagawa

N

Neighbor

O

onsen

田舎には魅力的な企業がないと思われがちですが、豊岡は世界に通用するかっこいい企業が多くあります。代表格であるかばんの組み立てや部品作りだけでなく、品質と顧客のニーズにこだわり続けた木製ハンガーや、バネ、エスカラーター、バイクなど、おもいやりと熱意を持っている仕事が豊岡にはあります。自分に合った仕事が豊岡で見つかることかもしれません。

色々な話を自分のことのように聞いてくれたり、時には厳しく叱ってくれたり、思い返せば生まれてからずっとたくさんの愛心をくれたのは豊岡にいる家族です。寂しくて泣きそうになった時は豊岡に帰ってきてください。説得力のある人生の先輩で、どんなときも一番の味方でしてくれる家族がきっと傍で支えてくれるでしょう。

観光、教育、農業、産業、豊岡は様々な分野を、グローバルを見据えながらローカルに進めています。特に面白いのが演劇を使ったコミュニケーション教育。

気持ちを伝えることの大切さ、表現することの楽しさを幼いころから学び、自信を持って社会に飛び立てるような教育を推奨しています。

ローカル＆グローバル

まちのど真ん中を人々と流れる円山川は、自然豊かな豊岡の象徴です。美味しい野菜が育つ要素の一つとなっている霧を生んでいるのは円山川です。カヌーの練習場として海外から選手を呼んでいるのも円山川です。いろいろな顔を持った円山川は、日々の悩みをゆっくりと洗い流してくれる偉大な存在です。

円山川

久々に豊岡に帰った時「帰って来とったん」「大きくなったんねえ」と優しい言葉で迎えてくれるのは、家族の延長線上にいる暖かい近所の人達です。優しくてちょっとおせっかいな言葉かけをし合える近所の輪は、子どもを守る強力なバリケード。近所付き合いは、助け合いです。

neighbor

豊岡の人気観光地である城崎温泉は共存共栄のまちです。7つの外湯をゆっくり巡り、各宿でのんびり過ごし、新鮮な魚屋さんやお土産屋さんで思い出の品を買って帰る。町全体が1つの旅館のような城崎は、日本でたった1つしかない支え合いのまち。温泉とヒトの優しさで心も体もぬくれます。

温泉



Aityでクレープを食べたり、SL公園で円盤の上を走り回ったり、翁でおじちゃんと話しながらたこ焼きを食べたり、竹野浜でジャンプしながら写真を撮ったり、豊岡には全力で駆け抜けたたくさんの青春が1ページに刻まれています。大人になって味わう青春の2ページ目も豊岡で過ごしてみませんか?

page

古風で趣のあるという意味を持つQuaintは豊岡に溢れています。出石の城下町や城崎の町並みも豊岡の古き良き文化を物語っていますが、大開通りの「豊岡復興建築群」を見れば、豊岡の忘れてはいけない歴史と、アートを先取りしたモダンな文化の融合に心を打たれます。数ある豊岡の歴史の中で、あなたが1番心動かされたQuaintはなんですか?

Quaint

田んぼの間を貫く1本のまっすぐな道。夏はすくすく育つ緑の中を、秋はカサカサと音を立てて揺れる黄金の中を、冬は降り積もった雪が作り出す白銀の中を、自分が主役となって進むパレードを、華やかなマーチとたくさんの拍手で歓んでくれているような気持になります。

六方道（ほくたん広域農道）

赤ちゃんを運ぶ鳥として知られるコウノトリは幸せの象徴です。江戸時代では日本中に生息していたにもかかわらず、国内野生個体が絶滅してしまったコウノトリを繁殖し、野生に放鳥したのがこの豊岡市です。豊岡市はヒトとコウノトリが一緒に暮らすまち、安心できる環境が整ったまちの実現に成功しました。

幸せを運ぶ鳥

神戸ビーフや松阪牛の素牛となっている但馬牛は、ブランド牛を支える縁の下の力持ちでありながら、品種改良に屈せず昔からの但馬の血統を守り続けている国内唯一の最高級和牛です。「但馬」の名前を全国に広めた但馬牛は、お金や賞では表せない価値のある存在です。

但馬牛

夏は海水浴だけでなく最先端なマリンスポーツを体で楽しみ、冬はカニやカレイなどのたくさんの海の幸を舌で楽しむ。「日本の渚百選」に選ばれるほど透き通った日本海は、私たちに至福の時間を与えてくれます。但馬の海は裏日本という言葉では納まらないがっせー魅力を持っています。

海



bunkiten



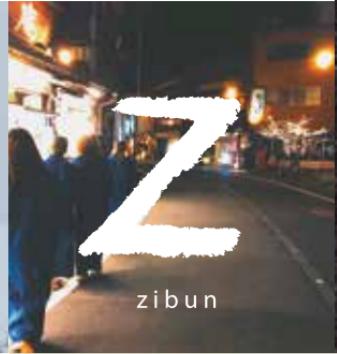
wing



keikodo



yuki



zibun



waga

自分はどこに進学しようか、どこで就職しようか、どこで生活していくのか、人生はたくさんの中の取捨選択で出来ています。人生で迷って挫折しそうになった時「豊岡に帰る」という選択肢を頭の片隅に置いてください。豊岡の人、自然、ご飯はいつもでも温かく迎えてくれるでしょう。

分岐点

豊岡に生まれ育った子ども達はコウノトリのヒナに例えられ、家族だけでなく地域の人があー丸となって安心してすくすく育つ環境を作ります。そして豊岡を離れる時、2mもの翼を広げて巣からばたきます。自分が成長して子どもを育てる立場になった時、愛しいヒナを自分と同じ故郷であたたかく送り出しませんか？

win

豊岡市役所内にある「豊岡稽古堂」は豊岡藩の藩校が由来となっています。今稽古堂は「X」という文字のように、アート展や子育てフェスタ、コミュニケーション講座など、市民が交わる交流の場になっています。今までの歴史と新しい繋がりを大切にする場所で、温故知新の輪を深めてみてもいいですね。

稽古堂

豪雪地帯である豊岡は雪かきが大変だったり、道路が凍結したり、マイナスなイメージばかり連想されてしまします。しかし豊岡の雪は、スキーやソリといったウィンタースポーツを楽しむことができるだけでなく、雪下野菜を甘く美味しくパワーアップしてくれます。真っ白な雪化粧で凜とした豊岡の魅力を見つけるのは私達です。

雪

人から「豊岡っていいところだね！また行きたいい」と言われたとき、自分から「豊岡っていいところなんで！」と伝えるとき、私は心の底からイキイキしています。自分が聞くだけで話すだけで幸せになれるほど大好きなものが「豊岡」であることを嬉しく思います。

自分

1998年2月6日、私は豊岡に生まれ豊岡で育ちました。料理が上手なおばあちゃん、大好きと尊敬の気持ちでいっぱいなお父さん、安心できる親友のようなお母さん、頼もしい彼氏のようなお兄ちゃん、妹のような愛犬ココア、さらに応援してくれる友達やたくさんの人。私が豊岡を大切に思うきっかけをくれたすべての人に感謝しています。

岡本美穂



これは来日山から見た雲海と日の出の写真。
日常では見ることのできない太陽の光をあなたにもおすそ分け。



これは豊岡劇場(通称:豊劇)の写真。
再び息を吹き返した豊劇からは、豊岡への強い血気が感じられます。



これは円山川沿いの堤防から見た夜景の写真。
星の光は、豊岡が誇るコウノトリ米をスクスク育てる養分かもしれません。

【著者からのお願い】

この本は、手に取ってくれたあなたのため書きました。
1人でじっくり読むのもよし、誰かと楽しみながら読むのもよし、私の書いたこの本が豊岡を考えるきっかけの1つになってくれれば嬉しいです。

でも、豊岡を作るのはあなたです。
あなただけの豊岡AtoZを作り、その本がまた、誰かの心に届く日を楽しみにしています。

あ、最後に一言いいですか？

読んでくれてありがとうございました。

「飛んでる豊岡AtoZ」

発行日 2019年2月22日
文・写真 福知山公立大学 地域経営学部 地域経営学科
岡本美穂(2016年入学)
協力 福知山公立大学 准教授 塩見直紀
田畠美咲 濱本麻耶 藤本あかり
宮谷七海 矢野可奈子
写真提供 Akitsu Okd 伊木翔 岩本敏浩 岡藤由希子
岡本信二 奥田愛 高田夏果 谷笑子 谷美波
谷垣信志 谷垣有美 辻至誠 辻田喜美子
中尾誠二 野澤良太 濱本麻耶 平尾仁 福島幹人
福吉菜々 干場康行 細川大蔵 松岡遼平
宮垣典央 宮谷七海 山崎理奈 山田和希
編集協力 古泉伊織 矢野可奈子
題字 谷美波
発行 福知山公立大学地域経営学部 塩見直紀研究室
090-6249-6539(塩見直紀)
〒620-0886 京都府福知山市宇堀3370

多くの方々のおかげでこの本が完成しました。
ご協力いただきありがとうございました。